

## Windows 10 (バージョン 20H2) について

Windows10 の秋の機能アップデート (Windows10 October2020 Update) が 2020 年 11 月 12 日リリースされました。

新機能は少ないものの、細かい改良が行われている模様です。

Update が終了すると、バージョンは「20H2」となります。

### 1. Windows10 のバージョン表記方法が変更

Windows10 のバージョン表記方法がこれまでの「西暦下 2 桁 + 変更月」に代えて「西暦下 2 桁 + 半期表記…上半期は H1、下半期は H2…」となりました。

因みに「20H2」は従来の表記では、「バージョン 2009」と表記されるものでした。

### 2. Windows10 のバージョンとサポート期間

Windows10 のサポート期間は、リリース日から 18 カ月となっており、その期間中に次のバージョンに更新しておく必要があります。

#### ◎ Windows10 のバージョンとサポート終了日

バージョン	サポート終了日	必要な対応
バージョン 1803 以前	既に終了	「20H2」への更新が必須
バージョン 1809	2020 年 11 月 10 日に終了	「20H2」への更新が必須
「 1903	2020 年 12 月 8 日に終了	「20H2」への更新が必須
「 1909	2021 年 5 月 11 日に終了	継続使用可能
「 2004 (20H1)	2021 年 12 月 14 日に終了	継続使用可能

### 3. Windows10 20H2 の主な変更点

#### (1) 「スタート」画面のデザインが新しくなった

従来の「スタート」画面は、タイルの背景に OS のアクセントカラーやそれぞれのアプリのテーマカラーが用いられており統一感に欠けていた。

最新版では、一律 OS のテーマに合わせた色に塗りつぶされ、まとまりのあるデザインになった。

## (2) 「コントロールパネル」と「Windows の設定」アプリの変更

Windows10 では以前から、設定項目を「コントロールパネル」から「Windows の設定」アプリに移行させていたが、20H2 では「コントロールパネル」の「システム」の機能がすべて「Windows の設定」アプリの「システム」—「詳細情報」画面に移行した。

なお、このページは「20H1」までは「バージョン情報」という名称だった。

「詳細情報」画面は拡充され「デバイスの仕様」「Windows の仕様」には「コピー」のボタンが新設され、テキスト表示をコピーすることが可能になった。

「クリップボード」にコピーされる。

## (3) Chromium 版 Edge が標準搭載になった

20H1 からは、Chromium 版 Microsoft Edge が標準搭載となり、旧 Microsoft Edge (Edge Legacy) は搭載されなくなった。

## (4) 「Alt+Tab」ショートカットキーの動作が変わった

「Alt+Tab」のキーを押すと、アプリのウィンドウ単位の切り替えに加え、Microsoft Edge のタブ単位で切り替えることが出来るようになった。

「Windows の設定」アイコン—「システム」—「マルチタスク」—「Alt キーと Tab キー」から設定

## (5) 「ディスプレイの詳細設定」画面でディスプレイのリフレッシュレートが設定可能になった

「Windows の設定」アプリ（「システム」—「ディスプレイ」—「ディスプレイの詳細設定」—「ディスプレイのプロパティを表示します」）から「<ディスプレイアダプター>のプロパティ」ダイアログを開き、「モニター」タブで設定する必要があった。設定としてはかなり「深い」ところにあり、簡単には見つけにくいところであった。

## (6) 「デバイスマネージャー」が開きやすくなった

「デバイスマネージャー」は「詳細情報」ページの「関連設定」から開くことが出来るようになり、開きやすくなった。